

俳句的なことから

(12)

俳句と私

中嶋 嶺雄

私のような俳句の素人が、「俳句的なことから」などと題して一年間連載させていたのだが、今回が最終回なので、そのことに甘えて俳句と私について述べさせていた。私は幼少のころから父(晴陽)の俳句やその結社について親しんでいたもので、いわゆる俳壇のことや信州の俳句界について、多少の知識はもっていた。

あるとき松本市神田で病院を経営されている降旗良知先生にお会いした折、「晴陽さんの代表的な句はなんですか」と問われたのに、私が「瞬戸惑っている」と、降旗先生はとっさにへとめどなく銀杏散りおり朝日さす」と暗誦されたので、驚きもし嬉しくもあった。

そんな父の影響もあったのであろう、私も中学生のころは少しばかり俳句を作ったことがあり、小さな句帳も持っていた。松本市立清水中学校は私の母校であるが、私が編集委員をつとめた「清水中学校報」第6号(昭和二十六年七月二十一日)には「霽紺の灯 三ノ五 中島嶺雄」と題して、奈良へ修学旅行に行ったときに作った俳句が十二句載っていることを最近「発見」した。そのなかの二句を選んでみるとうこうである。

猿澤の灯の涼しさを宿にいて
夏空の灯ゆる茂りに光る鴉尾

こうして少しは俳句に親しんだ私がその後俳句から遠ざかったのは、高校生に頃に読んだ桑原武夫『第二芸術論』の影響であったり、高校でフランス語を習い始めてモーパッサンの短編を原文で読んだり、スタンダールの長編小説や『恋愛論』などに夢中になったからであったように思う。いまとなつては残念なことであった。(国際社会学者)

由次(225号)

表紙絵 齊藤 清
題字 佐藤 文子

俳句的なことから(12)..... 中嶋 嶺雄

風のリンド..... 佐藤 文子

きのこ..... 赤羽 幸信

秋おくる..... 赤羽 幸信

俳句アングル..... 赤羽 幸信

邂逅集..... 赤羽 幸信

梓集..... 赤羽 幸信

五句選..... 矢沢 和夫 降旗恵美子 原田 明

秋の吟行記..... 御子柴弥生

風発..... 松沢 多門

溪流..... 青柳 可連 久保田 一

一句の衝撃..... 織田 美英 大西あい子

一句一会..... 高橋 美穂 中村 和代

青嶺集..... 加科登美子 永沼 武

秋の吟行作品..... 加科登美子 永沼 武

青樹集..... 加科登美子 永沼 武

萌芽集..... 加科登美子 永沼 武

久女雑感(22)..... 増田 連

せせらぎ..... 清水 奉人

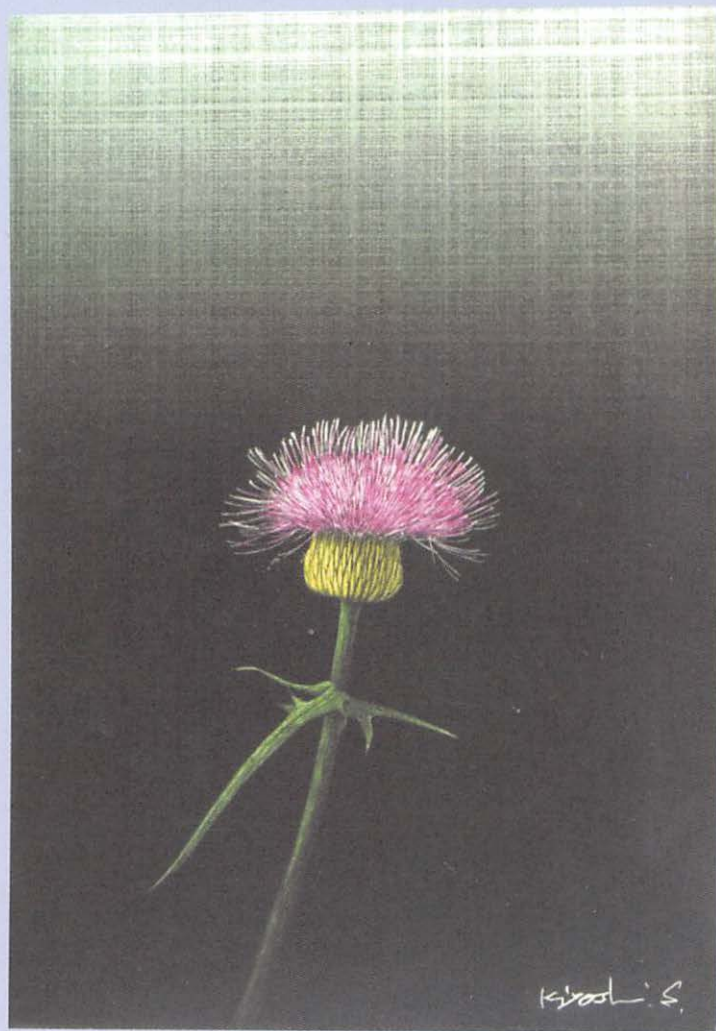
万華鏡..... 清水 奉人

受贈誌作品..... 清水 奉人

例会作品・風信子・文箱..... 清水 奉人

平成七年四月十九日 第三種郵便物許可
平成十五年十二月十日発行（毎月一回十日発行）
第十九卷第十二号十二月号（通卷二二五号）

信濃俳句通信



2003 12月号